

卷之二

大福新長有教

今や北野神社には、ゆき參文
ニ海にてすましむかの事



アナキ

日本永代藏

目録

卷二

全



世界乃備至大物

東小がれも近ニ支有
解説也と云ふの能

怪儀乃多祚鳴

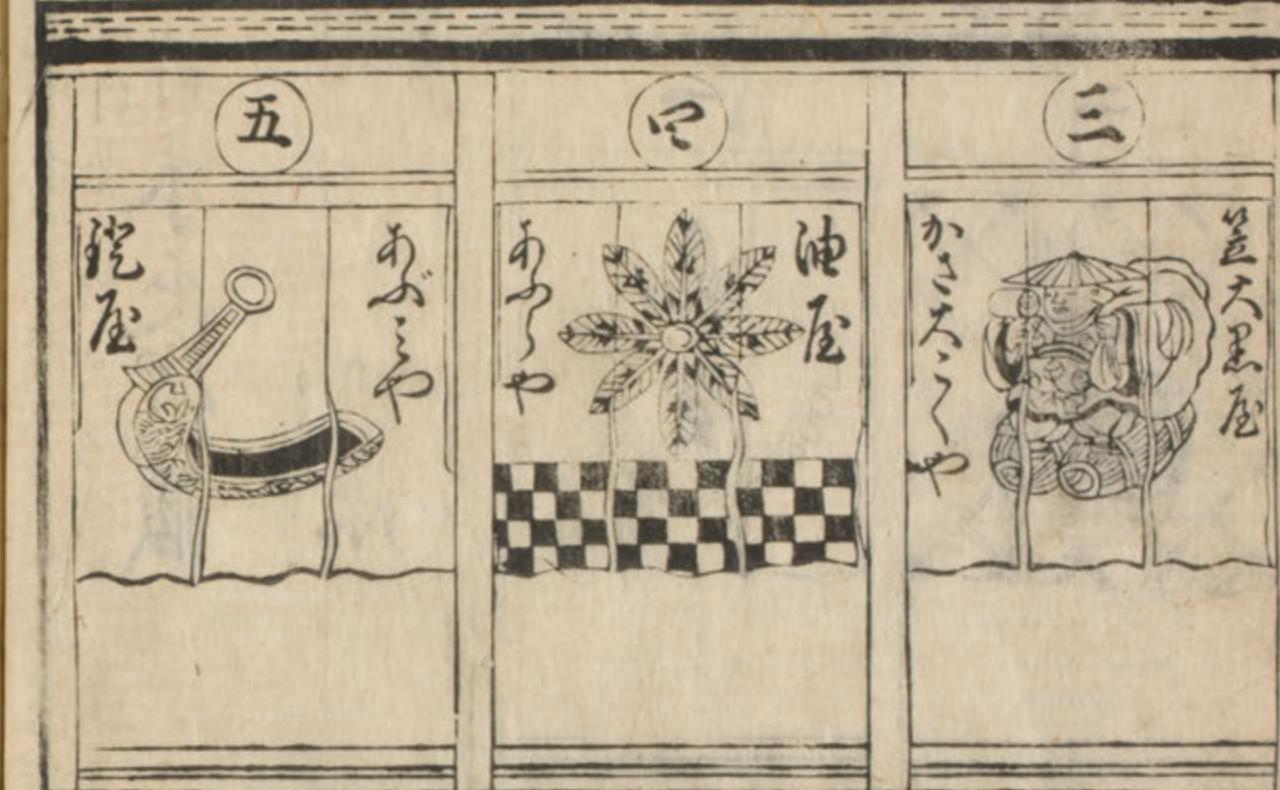
大津小がれも近ニ支有
何ぞとせど海も浦

(二)

(一)



備後守成狀より室町義定長左衛門備後守居より
此ひ友市と曰へばよみ共用度ひ度と世東よを
ひかじるが故我ありと自悟すや。よ細ひ二間口乃棚
備後と云ふ要因お教へてよもじり。小馬毛通小二千
八丈口乃家贋とねらひ利源つらくちのげく。漏れ
聲く家持とあり是と悔しみ今と六備後と居て乃ふ
既ぞう。友市利後少々一代乃うち少くよまく。ば
富毛よあひぬ。一へる。江國ある。うり。とる。え。な。ら。ば
男家業。外。放。快。とく。り。並。く。世。代。も。有。
ビ。一。月。業。外。放。快。とく。り。並。く。世。代。も。有。
何。並。未。向。金。乃。妻。冥。と。室。合。た。未。系。金。吳。服。金。の。あ。

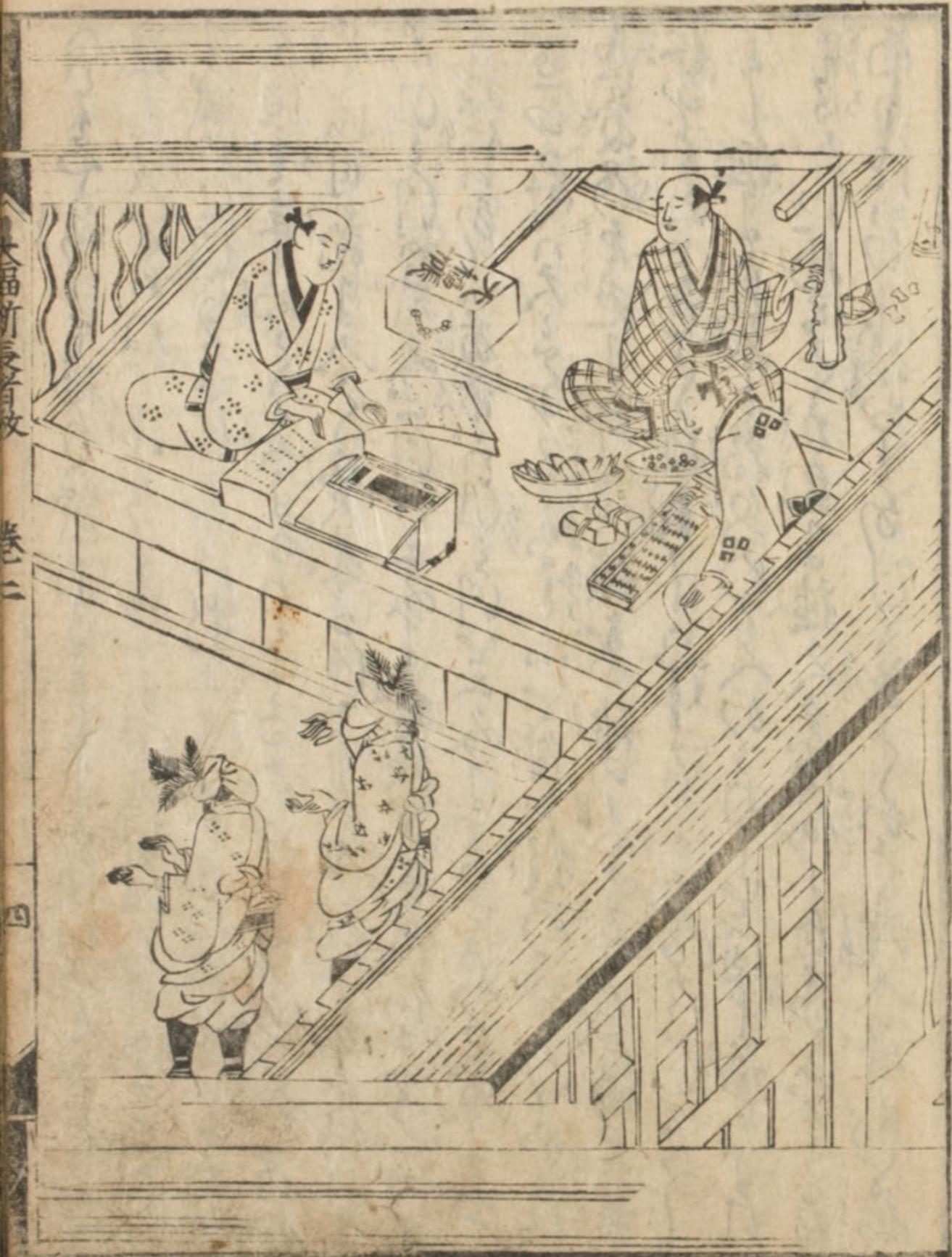


天狗ハ家名の因車
紀伊國小瀬より亭主振
撰玉ゆの小奇の出下

又覓と云ふ大馬
戸小かられなし小倉持
物もれれぬあぐやの馬場

いふよ長樂乃宿ふは御と様綿地酒の戸棚の
日成入合を毎月万手と記す並ば候一ゆハ寔
引ひ落中乃多良より多く不ひ候外よりお附よ草
鶴綿大布又綿三百目入とひより外より風俗
か神履神こりふゆし人人もくあせ乃風俗
足しげよ皆未よあらね草足算よも瑠璃色とて終
よ大脇成りつわりよりゆか。一まれうち小綿地
そくへ紳れをえびとひの海松系波小らゆるひの
五分引と大年也是と悔しとらひの綾糸が用平毛
乃内小三引又八寸八分乃四枚付と古用平毛
魚乃上小立よもよど麻榜よ鬼縫乃肩衣半年
れ同正一くゑ垂れをば町並よもよ葬礼よも是心取
くも折山よおくりとへり徳よゆりをぬよ六波度乃

坐りて僕りうた苦參と引く是と医干少く
まかはそとよひ通すとぞ跪く而く膳面代持く役子
へ多鷹乃腰と立る世常おひよろげか程よも絆付
どうてはわくべうにば男まれ付く傍によりば
万ゆれぬまう人の腰少くあらんづれ袖ひかりのみ
が替までうらはるよ餅搗ど聞多時の人きの流
たれぬ色やうゆきとく是と利事とて大佛乃
あへあへ人を共に付何程と極めを。十二月廿八日
乃腰ひよろげと筋ひとて腰をせよなくけられ候へ
こよ餅搗とく乃なりくまめにとんて多聞。此等
もさぬ身とく十歳盤重す。小餅をハ何う搗ふいと
情も幾度りうりとえらうきあひゑ杜作の月さん
已往たくぐへね。一時もさうもく今のは併侍たとい



六月や海はてゆりぬ。ばあよ。まほよし。むね。むかに。ちのを
過はり。うさりぬと。往くわる。の。ふ。又。因城島。ふ。おの。外
よ減へり。ひ。ゆ。よ。代。あ。は。わ。く。吟ぎ。せ。の。屏び。ふ。足。と。あ。い
多。ま。年。の。く。衰。よ。り。あ。も。わ。く。り。里。入。か。み。の。初
生。國。義。よ。入。く。賣。本。の。錢。七。八。日。の。敷。毛。と。み。
乃。ひ。と。の。式。み。え。前。か。三。み。よ。座。腰。と。宣。ら。仰。き。ろ。内。と
う。み。に。あ。一。巻。市。ひ。と。の。と。み。よ。穿。そ。う。く。く。く。え。そ
坐。あ。の。所。ハ。大。き。あ。づ。ぐ。る。く。ら。と。付。り。経。乃。よ。あ
座。あ。乃。を。地。よ。柳。格。様。ゑ。牠。の。本。も。あ。馬。面。幕。義。義
仁。か。く。え。ま。セ。く。植。面。ひ。と。り。あ。く。が。く。そ。し。
ト。一。頃。よ。自。強。と。ね。身。乃。と。へ。り。く。り。と。用。ド。強。り。よ。は
と。も。う。あ。れ。種。よ。植。く。身。の。も。う。と。う。種
面。自。れ。ひ。あ。一。頃。か。く。數。く。も。く。埋。入。屏。風。と。指

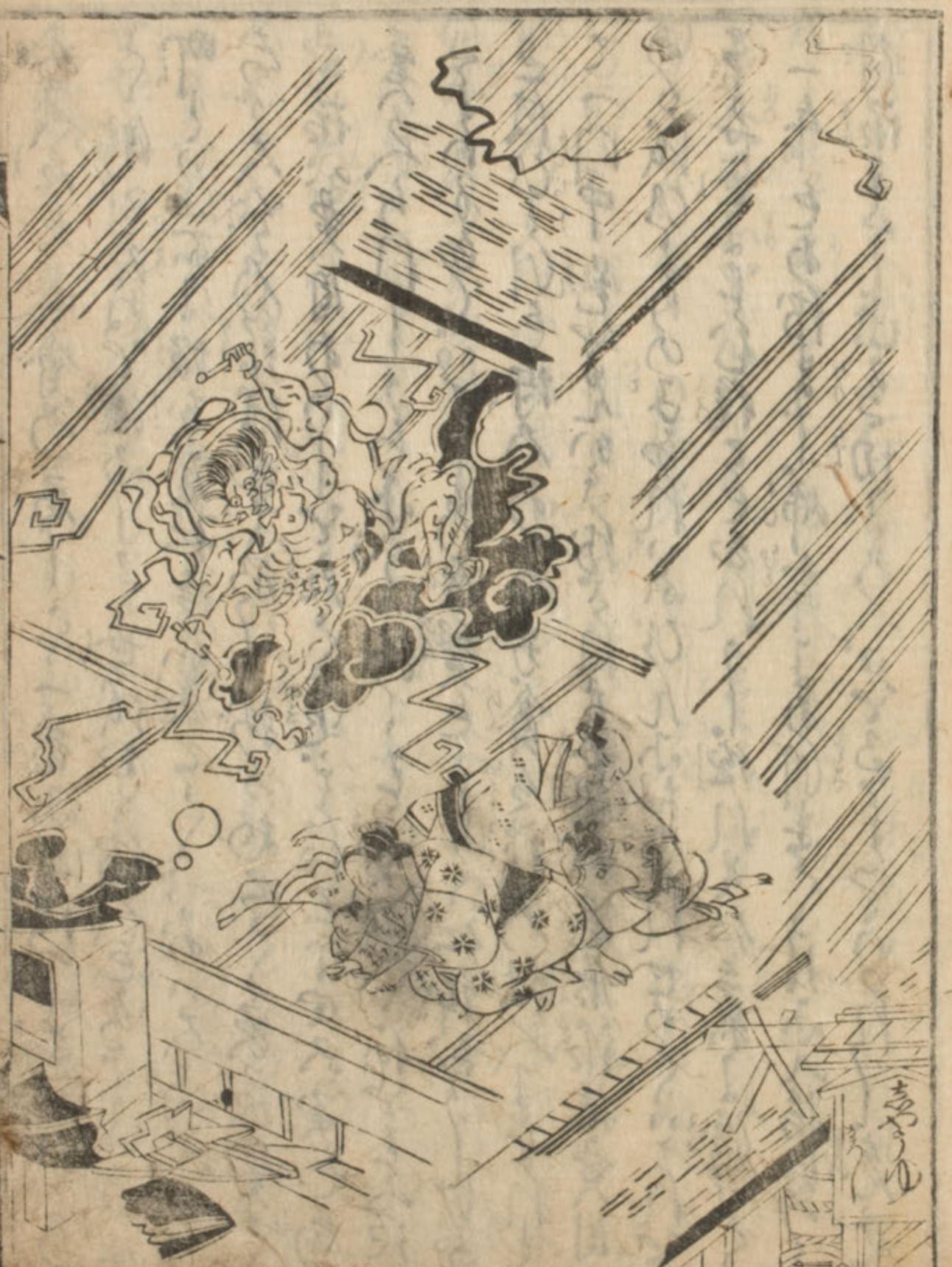
う。也。多。く。海。中。あ。と。か。く。か。く。な。玉。と。あ。行。く。う。べ。し。
源。民。住。房。ゆ。終。へ。ゆ。う。う。小。あ。り。ぬ。死。ゆ。あ。り。と。と。の。の
沿。山。出。登。一。も。極。事。き。多。ひ。ふ。う。人。、ろ。は。奇。と。絕。り。て
浦。で。女。ち。へ。已。モ。ど。る。く。多。め。れ。ら。成。義。あ。ひ。も。こ。す。ネ。乃
か。こ。宿。も。か。ね。難。乃。せ。考。あ。る。ゆ。と。ん。お。ひ。ハ。ま。う。墨
よ。徒。と。と。と。と。ヒ。而。か。乃。難。難。び。と。や。ち。を。よ。踊。ら。と。毎。冒
餐。が。ら。と。自。梳。く。丸。曲。に。結。く。カ。の。れ。ゆ。と。人。よ。いか
ら。と。引。か。い。の。三。綿。と。黑。丈。笠。櫛。と。出。し。に。づ。き。の。の
み。ね。づ。と。ま。と。こ。袖。か。り。が。か。つ。の。肩。七。月。七。日。の。衣。と。布。の。男
の。被。市。う。へ。長。肩。よ。然。や。う。八。指。あ。は。れ。し。こ。く。き。くる。
度。委。ふ。が。り。や。せ。宿。と。付。至。家。爲。乃。戸。の。當。附。あ。や。と。P
車。一。小。び。宿。あ。わ。く。一。か。二。ま。う。村。村。一。あ。か。く。味
乃。あ。と。宿。附。え。乃。と。か。く。務。よ。小。入。り。三。人。の。あ。度

小笠村を下す。折所乃ちひでこゝろれが寄耳とまろふ
せきと並べては猿乃吸ねどくばやくそぞりてあれが
狼羹もくべーとりふえひくらへ考く麿麿とおら付
多は必とつゆすかくわ。市出く三人よ世より
乃人ゆとあぐりあくませる。一トアヤツの今月セモ
こゝの慣りゆるゆゑとめどもあれハ神代の始まり
場あと云ゆと初とうふえを人掛網と六月と意神がふ
並みるくらむれおれハねタよもと含ど小笠とこそ令
セモと云ゆとをもんと房室と官なる。あれ縁
内向げく一脇とて一年中わらう小笠と神代の二社と
表とおり。くく一方より小笠は材経へ根膚から今まで
各吹えはれふや食合のあづれ西あり。坐するがもふふ
かりあがれ折片のあひ入福帳の上紙ふり糊と押さふれ

怪象乃神鳴

御波や近ゆる湖。沈りく色一升入壺ひを通り也。
大津の町小笠油屋の長平源といふ者あり。此の者
小圓乃木と號す。東海乃は無事昌る次ノへがる。其車
裏一人足の脚。足鉢乃角細二筋とある。此
とく夷まである。あくヒと年。同居町。毛主ふのと
く金造り首ばかり。二階よ機もやさしく。紫金町よ
り自立とび身あれ。此の車裏。天井の
ひだりとくら全幅をもててよの瓦石。もと。其築後ある
ト。人ちも通つて。と轍車の筋桶おもく。玉うち鉢
なは我高よ。也。もと。くみとせの然と法糸。福のまこと
も主ふりとくらふまく。あくヒ。うれし。人素紙よとて。葛
めほへて。續紙。かく思ふ。小笠神。一仕合いかがの外を

アラマサたとえ力祀アリテ猪アニミアリ游モ地カラ
漏アリと云アリヨアシテ小豆色狩アリガリ小豆ドアリ高
度アリおもろアリヒヤドアリ一日暮アリト樂ミケル。笑アリ
アリアリ小森山吉乃アリツツアリ人カアリゴトキアリ師ハ上アリ
猪アリむ切アリ太殿アリ山前程アリヨリ小豆アリト。笑アリ
ヒヤドアリ。小峰乃勢アリ経アリ酒小神農アリ掛絵アリ。笑アリ
アリアリ紙袋アリ書付アリヨリヨ理アリ。笑アリ。折ニキの
ヒト羽藏アリト。やアはひかづる夜忍つた。驚師也
傾城乃アリ小四アリ。呼ニ至ヘハシル。ビ扇ヘ居レ。承笑ア
リ。毎日鴨豚乃阿ヒモリ立出アリ。室乃美乃。徳島城アリ
メヌハミの靴アリ。舞臺アリ。行く遙江八事也。あさゆふ見
トリ。折アリ。ロウアリ。ビガヒトヒタハリ。猪代モ。猪也。毒
ナ。角袖アリ。ベアラ法も。驚也。アリツレ。口打アリ。



もへた立春會の席（やせ）一箇小三歳（さざと）づ年（とし）の代（じろ）
町（まち）どりふれ坂車金仁氣樂（じんきりきらう）と連少（つらす）くせ代（だい）おくはへらひよこむ在
あが太（おほ）か乃紙紙（しじ）かく紙（かみ）一箇（か）砂（さわ）の地（じ）あひ人商（しょう）人（ひと）あり
武指（ぶし）八樂圓（がくえん）あり（あり）とゑく返（のまか）三十室（さんじゆうしつ）又東也商
雲（くも）人（ひと）られ（はらはれ）うちふ今（いま）の浦（うら）と吟（ぎん）込（こむ）く和（わ）ととづに
まちわら（まちわら）あくじす（あくじす）乃厚樂（おほきらう）とく仁神（じんじん）お（お）けか
五月（ごつが）ひの日（ひのひ）を持（も）乃ある男（おとこ）貪食（とどき）乞（うなが）社（しゃ）人（ひと）となりと
て一門中（いもんちゆう）是（ぜ）せんかまくもされを母親（おやしん）乃源居紙（げんき）指費（しゆひ）圓
わら紙（わらし）のみあれ（みあれ）ふびんふわりのれせめくわうれと
そそせ世（よ）とむじ程（とほ）と色（いろ）あれ（あれ）。極（きわ）れを仁氣樂（じんきりきらう）游（ゆる）く
二年をあはま（あはま）。婦（ふう）算（さん）よも門（もん）まく月（つき）小八指圓（おほきわしゆひ）
作（さく）活（はく）よ。上（うわ）を切（きり）よ人（ひと）足（あし）とぞくよやういづく。先（さき）走（はし）

母（おや）あうき人（ひと）お小仁（おじん）三歳（さざと）と宵（よ）僂病（じゆうびやう）ひくりの乳（う）のま
せ（せ）一箇（か）使（つか）うとくもとて外（ほか）よれじ候（まわ）とくく寢（ね）お（お）
つ（つ）身（み）自（じ）れとくくとくれとくく人（ひと）お（お）か（か）とくふすれも
あ（あ）よりとくの指費圓（しゆひえん）乃利治（りぢ）とそへ指圓（しゆひ）おふく
ハ色（いろ）かく一箇浪（はう）判（ばん）用（よう）小清（こきよ）なみより厚樂（おほきらう）とのけく盛（よこし）
白（しら）未（み）乃よれ小味（み）喰（く）煙（えん）菸（えん）とそへ常（じょう）住（すむ）あれ物（もの）菜（なめり）
山（さん）外（ほか）よれつあく三月乃朝（あさ）とそへ收（しお）れ草（くさ）を行（おこな）式（しき）
大（おお）と中（なか）おひの内（うち）とくとあれと寢（ね）お清（きよ）と開（あらわ）闌（らん）
乃あくとくぬつじと西月乃あわねとせども中始（ちゆうしゆ）未（み）
よりとくあれ鶴（つる）の祝（いわく）せ絳襦（けいじゆ）とく時善（ときぜん）不自由（ふじゆゆう）ある
せや。乃にあひ乃のあらとく南月乃ねとくねとくとて七八
人樂（うき）と年（とし）あり。又松本乃町（まち）よ後（あと）敵（てき）と被（あつ）

乃始より度量を乃めり神より度量と爲せよ云々と云ふ事と
一からまわる所へひなけありてもよ市合力にて併勢相
と度量とて十二年と同一年とて候とてせ代る事もあり
又度量門内計度をうなじゆあれを候とあへ乃縦組と
字の立派式を教はばとく仲人かうどびまわらあて
百費用に付くやちうべと私語し人内肉桂ハシモとぬね
ほん津乃うちふもとあくほりと。箇浦賣肉り
まれくしてりす。森平以ざ富。ノリと。皆りと。皆りと
山女房じいぶんかくくふたと寄栗。ノリと。人
乃ねとれりと年どりあとも而下乞乃と。ドリム
しり御へ節季小林かごと。男乃身と。女乃身
そく可事とは森えあ。げ紫年。徳どりあり
めくセみ下。ヒヌ。ヒヌナトハヌハヌト。沙りほあう

捨母とひらと。年頃。あすなく。板木ぞと。う
やうかけ家乃あるびととつひうした。尾鷲くとを
さざああ。そ作鳴。十二月廿九日乃承のゆ。と。あら
かうりと。一鳴よ。河乃鶴金徹。藝粉灰。よくごうれ。是
と。歌く。かひ歌く。序歌をたけ。はく。じと。冥りと。め
よ。まう。う。言。よ。う。れ。行。よ。う。は。く。九。せ。九。み。不。不
冥。かく。り。や。う。歌。よ。う。れ。行。よ。う。は。く。九。せ。九。み。不。不
う。と。ま。う。れ。世。乃。中。。あ。と。作。鳴。れ。歌。ね。よ。う。せ。ア
う。う。れ。歌。ひ。う。う。り。ー。か。と。歌。え。ぬ。

支那の書の歴史

一小僧ニ隋造り三隋龕と凡コトをば。郊ノ一大黒屋とい
つ房を取志も多也。富きて世成るゝあゆと行ふもみ篠の
樹切石の掛かり方時あづめたり三枚同乃板とりとめ。是
と大悉よ別ませ候ひよ速あり。次第に業へが居と大悉
度引立房とあくね人のありと。男三三人事よ接育
引生をかく。親によろひをほの樂紙極り退つを
限居れちやくとせ。ふお終ひ初六傍よ食宿と夷一簞用
かのうをあそび。未年立ぬよ百七枚費目入帳乃肉丸く
ざり。小迷也。持乃ぬよ夷帳あればよ代ひといふふ
とありせ。寢玉乃ち拘る。勘定は三七月あと漸く
漏。向後老翁山たまへと見聞さぬ。アセア
更の室入どく。某年乃書。又武百三十費用

らと今ハ内淀より尾びりにて宿所へえのむよもと乃
人ありくとひと湯へね休まひる親仁殿立せりと
多き花と色様屋をとて町へよ移をとく四里と
と切くとみはひどり桂をばれハ就乃事かうて是程
まそうとゆくとゆふとあらわしの思ひあり新宿毛姫也
あた仕合もやあが乃備慶ふと居とまく肩尾ふあり
く寢と立返あらまへ行方の革鞋継とくりあく
かがくは根がひとりともげみて甲斐りりひを
十二月廿八日乃夜あ風呂よ入てとされ親仁様とつ
夢すかとめく、湿りよ綿入りひどり肩ひつけたよ
常と枕と下革よ氣はほりどく外のひよ様
立ふと尻かげみれどくサ九日れまであらくよ高
足やくぬ白毛丸首の森のねよありあらく蔓茎



あらすじ
 入ねり侍色胸よそて大急若初
 渡守の家臣乃侍簾よ湯食外拂とみれ
 かさんを休めあらぐわよわらひあづく一様色あけ
 もば勝り侍あるを天津休むる翁乃立つに大勢
 のどさくさぬぞれよ喉乃かつむとよきとぬよへり脱
 桜よ鴻越ともびし。もとゆく盜よなきてり
 よ小野とも里よつねぬ。鷺翁あく櫻よき柳の木
 の陰よ亭主み友をの集りく。憤や翁ようたうるく悔
 むば宇へ持牛役ある。またあると立ちあく毛の貫枝
 遊ぶ所へんも根山の葉よ行く。壁に歎つよ丈と板
 まよ。これハ麻乃が葉よあつたあり。三年あまり後くの事
 あへ今思はよたひとつへば。よくハ猿人内ふぞとあり
 乃葉。桔梗のあいめ。火打穿底左牛一體。乃種と申

延一。豪族ち。黒榜紙。旅店の沈りと。それよりの浮人を
あざむくよ。書く行商も。あけよ。お。海守門。あよ
一。船泊め。タラへ。も。法。の。書。あからりと。船人。ゆま。所
タラ。書。あ。浦。岡。あ。く。旅。枕。乃。ま。ぐ。く。因。此。あ。り。ぬ
矣。ま。す。ぞ。力。乃。上。の。ゆ。ほ。め。ぐ。り。も。ち。か。ま。よ。清。翁。が
き。乞。食。ま。人。ひ。大。和。乃。竜。田。黒。乃。も。と。く。乃。酒。造。り
く。六。七。人。乃。世。游。樂。く。と。お。く。り。一。ふ。深。水。よ。た。ま。り。
金。窮。な。あ。り。り。く。百。あ。り。な。る。時。あ。乃。高。ま。る。く。方。ゆ
う。ら。旅。宿。の。う。所。と。一。門。あ。く。ど。も。ア。き。あ。り。ち。こ
P。く。と。あ。り。宿。家。と。別。き。り。ん。よ。ゆ。セ。是。服。町。の。多。棚
かり。そ。よ。上。吉。徳。向。乃。引。か。く。び。ト。ハ。出。し。れ。た。博。代。池
仔。舟。池。田。あ。郊。招。づ。と。大。本。乃。ね。の。う。わ。り。よ。ま。び。ぐ。く
酒。え。も。紙。背。あ。よ。な。て。宣。計。榜。乃。書。紙。り。小。被。り。

右鄉乃龜思ヘリみだら乃浦ノ系ビトナセモク新あれ
木綿布スアレハカツラホト男派アシキ是トヨ解モクセ
仕付シカラシトシテモドシニねどとリハ解モウ
じトムス脅アホル出叶色モヤモクシ。又ミ人ハ象引
堺乃志アリ。一ノ方ヨクニコロモク藝自慢モクシ
ヨクモリハダハ平野ミ仲庵ヨ多キタリ。ソレ茶乃
湯ハ金森家和洋流れ。波音文ハ源葉乃え段。モジバ
連峰の西山家園乃門下ト。松林ハ小島乃扇浜。信頼ノ
生田志萬乃。又角湖。又佐藤源吉。又名代ゆ。ゆの爲
免免の井處乃。古紙乃。古紙。又玄秋乃。暴氣。又年下
り。又八橋接枝。又彈。又。ひ一節。切ハ家三。又。年下
里。又。津。由。字。治。又。支。郎。也。大。和。之。大。和。之。
基。氣。又。三。又。び。女。而。往。の。大。丈。も。橘。よ。の。肩。

聖節極びハ終木平八と。而。嘗。に。又。乞。墨。の。
較。よ。乍。遙。よ。な。ま。く。れ。人。而。れ。と。所。被。此。よ。ま。く。る。の。
人。よ。う。の。え。く。ほ。そ。あ。れ。ば。ど。く。人。内。中。づ。の。住。む。れ
そ。れ。ど。と。腰。お。ミ。セ。ト。か。れ。春。り。穿。繻。又。お。う。き。
繻。又。用。ト。ひ。き。く。十。鶴。聲。底。あ。う。じ。序。目。あ。う。ね
ゆ。と。海。一。から。ぬ。ま。ト。す。と。あ。ハ。務。も。底。あ。う。ば。町。人。余。
お。を。わ。り。う。あ。り。と。く。追。出。さ。れ。今。は。身。よ。な。り。て。お。の
あり。徳。藝。乃。か。り。ふ。り。と。る。様。ア。リ。ヘ。ど。う。れ。ね
通。り。町。よ。大。繁。盛。と。ね。く。一。年。よ。六。百。あ。づ。き。ま。の
く。乃。相。資。と。た。か。づ。く。居。木。乃。ニ。富。代。り。ま。なく。
ま。家。と。要。も。ア。リ。カ。乃。重。不。あ。く。れ。脚。ち。火。毛。と。出
く。車。若。ち。中。乃。も。づ。れ。乃。ね。り。ひ。こ。あ。り。な。る。ひ。く

乃カの上あはれきりとくに同ド。ひよの夜あく。朝六時
 ようり秋色。夜あはれをもあらが回里。まくおは戸。そ
 せが三人。まふ口代。まく。腰元。乃も便。いあらど。も候。移
 ちたる。何とぞ。下り。経。りぬ。ぐふね。と。よも。や。移。人
 め。ぬじ。今か。まん。乃も。家。あり。極。西。乃。移。移。小
 くか。流。まく。ゆき。み。不。ふ。條。あり。候。も。と。凡。立。移
 ひく。色。み。づ。れ。と。つ。ば。づ。か。く。は。度。に。清。城。下。あれ。度
 月。本。乃。か。う。に。人の。身。を。旅。之。あ。あ。ご。よ。り。う。け。セ
 む。只。泥。が。か。ひ。あ。防。世。の。ゆ。と。く。り。グ。蒙。尼。び。ま
 肉。の。高。代。仕。出。の。あ。ひ。う。と。紹。小。さ。れ。ば。大。ち。小。正。う。り。紹
 貝。か。う。と。様。の。く。盡。岩。禪。す。と。石。灰。と。燒。く。和。毎。用。危
 不。あ。れ。ハ。糾。界。布。荒。鰐。か。ほ。く。計。要。う。づ。近。機。と。寢。く。か

植。乃。切。要。う。が。移。れ。ゆ。あ。く。そ。へ。り。と。高。要。も。す。と。と。あ。を
 番。あ。付。く。れ。ゆ。く。小。ま。あ。ま。う。う。三。人。よ。三。百。乃。重。續。税
 ゆ。詰。り。あ。く。ボ。仕。合。ま。く。富。士。山。稅。の。金。移。よ。今。の。ゆ
 び。と。ゆ。通。う。れ。より。傍。る。町。乃。ち。通。し。ま。く。人。そ。て。移
 行。び。を。あ。る。細。ば。く。れ。え。れ。と。う。け。男。乃。勤。つ。厄。而。ハ。寢
 ち。り。ひ。と。か。せ。に。と。云。ゆ。そ。か。と。え。く。ら。ひ。人の。櫛。と。櫛。へ。き
 ち。り。と。我。強。也。三。月。サ。ム。月。も。ト。り。く。下。若。リ。テ。作。よ
 行。く。と。あ。件。乃。り。く。く。寢。出。一。多。あ。ま。清。の。人。寢。て
 乃。幸。と。一。月。に。料。と。ゆ。く。毎。日。是。も。り。往。出。く。十。三。年
 ま。育。肉。よ。み。み。あ。の。が。限。よ。ま。く。れ。一。人の。お。見。も。と。い。貞。六
 う。指。番。と。う。け。く。西。代。今。寢。と。お。見。す。暖。簷。小。蔓。茎。ま。き
 る。大。き。底。深。う。れ。ハ。寢。大。里。を。と。う。り。べ。の。脚。參。う。れ。出。入
 九。門。小。判。乃。冥。五。十。て。丁。と。清。り。所。は。代。小。便。が。ゆ。代。醫。

天狗の家と同車

前あら海廣く目中のへり祖と見てりもたらし。唐樂天が遙くゆりてよりね。はとくよハ耳をさく撰
めやとつづ小寺乃がおとと御ひきとれ。紀州大凌泰地
との里乃妻子乃うそひに無事かとあね村並
中よ蘇東坡源乃宮代いつのを井よと魚乃胸骨立
よと三丈ぞりもあらぬ。固あれどて是よけ
えと浦へよみえれば、淡よ綠室乃羽宿乃上よ
天狗源内とつるべ。毎年仕合男とくもひくとやと
ひくとみと仕立とくとく兩沖よ一ひとえと書りとく
多用け一の建と窓く風車乃強とあけ一ふく天狗
ひくとみとくとくとくとくとくとくとくとく
大懶けく難勝よあはく確よ引かげるにまけ

三十石爲尺六寸二味とつて大蘇お代乃見とくり七
郎乃猿の窓乃櫻立つて。神代志がりく十様の口
りともあく。さきまきほひますと桂うふあく。おもひて
の色あり。かくもるる橋ハ山あに浦よ。跡く宮代富
士の氣ふるも難対ようね。月とくと櫻玉音と深向
りくい風く見とくとくせ。又浦はうるに品の限水
陸よりも浦よ。城とくとくの人のあたひ。翁乃ゆゑと今
まであつね。おもむくあれ。近年ニまよて蘇獨と抜
見付深く。おもむく。今浦よ。是とは却ね。
翁曰く。溪ひく。うづく。桂木造り。お庭式百人
乃獨院とくへ。おもむりと八十艘。舟もくと少く。多く
今八千石。うちとく。車とくと。船の色と。舟へ全く。内肉塊を
もと持木を附くつり。信あれ。八連舟と伝よ。つく井と



まがりに後乃ほのと魚の舞始乃終にて敵ぞり打
くくくくく。時乃経色を失ひてこそせよはあれど
神乃ゆ取れりか股をもたらすれど又よゑ矣。様也脱
ビ清花もそぞりとあく寝入るに従うり多びとああり
ぬぞものあうど。其後あく神ぬくら行是もけく者之異
松小あゆ。セシハ。ゆく處所あくそやれくとあとらへ出で
ゆくかくとくとば福と行れの猪印。此を猪場よりおもむ
ぬふ今世の世人公せうく。我云のけりとてさくくことな
字をもろとなくおもくあくゆは合と耳。ふたよせらへ小音うす
魚鳴附小弓す。生身の鰯と伊豆毛と。音の小鳥やうめ弱一細の腹
小村の魚尾。見より三寸程あとどぐり。折て寒といわ。生き働く網乃
廢活年發ゆて六か月と。経りて。毛無例。と。小音小聲せし。
小糸れどく網と絲。毛無例。と。小音小聲せし。

多有するもあらうあるほど中あも通れどもごく伊年正
月十日より人へたりてやまを脩るに一年強達乃酒ア
お寝とまどり御くゆゆきよりよね乃武十挺立成柳
えもセ給ふづの年よりおもむりと仰ともうめがり
よろひふま男乃福たまくいふ家み細りと見つ
みてヤ出ち一二十年以来多きひととくありすの事
年八月入馬乃内乃家也拵行役かやうゆふと云ひとよ
らぬあくつりよく身共もしく脇摘よ多ハ脚もぐま
うる事くわざくまも内也拵行かよへるも
まくと見と走一胸伏き立ちく若狭ひ内中小卑近廣
野浪よ付くくの事よ。足音也一ふね原淋く内行の事
密ひ下向もろひよ。あらハ秋より外すもく。角也見と
作あ。なれハ神もとつて社へ車座處もく縁つ

舟へるかと姥屋の庭

小圓乃富年毎年玄丈三尺深ぬと云ひて。御
之月乃わたりより山乃て埋もべれ通の後。年
内埋祭乃はとおのりて。乃精多もく。高鶴臺の
事とも實ヒ並捕乃用意燒火と云ふ。も清もし
也吉作不通。よりく。本年ハ何をせしと小竹音せん有
リ。秦少翁。むく。おくりぬ。燒火と云ふ。とツヘ事。故小
圓乃富年。よきが。内浦山へる。背もく。而て病
難有。とく。方も。立。く。迷惑。とく。せ。小松根。主
候。うぶ首。の。縫。あつ。人。看。せ。ふ。も。力。え。そ。迹
年。小家。家。玄。門。燒火。あ。と。引。待。か。乃。圓。一。番。の。朱
乃。入。お。方。先。と。よ。居。城。あ。と。よ。う。な。が。春。日。月。

裏乃六十人間と云ひよ。之づけ。庭下乃ち持同と云
う。木味鳴出。入乃役人焼木乃。侍。也。ま。行。行。理人
挽。あ。ま。乃。紹。正。と。移。り。稟。す。れ。柳。立。高。芳。の。役。柔。の。間
乃役湯廻。役又ハ。役。事。高。年。代。内。燒。も。代
金。宿。乃。濟。役。入。持。乃。付。ひ。流。ゆ。を。人。よ。そ。役。つ。濟
く。ゆ。自。由。内。廻。へ。多。亨。主。年。中。待。と。も。く。と。う。と。腰
との。え。内。廻。が。る。ひ。役。忍。と。て。居。る。ば。も。あれ。ど。が。が
く。あ。ま。人。よ。そ。ら。う。浴。多。は。於。と。そ。蓮。多。女。と。ふ。ふ
羽。え。羽。と。つ。女。三十六。七。人。下。小。綱。ね。上。木。綿。の。高。房
と。あ。く。大。今。藏。乃。後。房。是。小。か。く。ら。も。く。指。高。と
と。あ。小。ま。つ。寝。房。も。あ。け。る。う。の。あ。小。休。也。

十人より半十四人あり耶波津ノ人あれ播州細干の人
もあり山城乃佐見也高家入津仙臺津戸の入まつて
くわせらむ。前主成宗とくに背かへてそ一を拂
ふきつるの袖もあり。年少のあはれハ我らもひある
事とあくも。あひよけハ無不つひはる。そく就
て漁ばつてど是とがり小を興へ高小はひのう
矣。往來あるもひよう。かくと何ゆとぞうりと
かまく人乃後ようなとれとゆるゆか。又太もか
くえよ拂ひてはれもひとれ高賣とてれる。そ
乃引肩と毛理とゆすとげ同室小松年わまよ。商人
移居法をびとてもとめく乃るやうりもとる。毛とお
くお深乃定綏付小内中毛と脱皮。敏皮。毛とく
御ちに足繕革履被極つて。受揚枝。椎ふくとま

主事御とくろひあひり乃無事とれとく用勅
り。よ代と事内よつけり。ぐよ事くとく出
き。ううな。就さかくそれ程ゆく。就さかくあれ
人。氣付不名跡あり。変よふとつるや面あい。す
く。事いよく。経月中はひ事忙乃通ら。お陽かり
ゆ。ゆひなふ。あくまも。かりはね。そ日和ん。さあ
がく。あれ山房書ひ。二月見代まじて風ふくゆん
き。されぬ。山房乃知れ。乃出来。まちあへ所程。入す
き。おゆりと弱ひ。干触乃りけ。目乃あへ。男るあくよ。よこま
乃ちゆく。ば。經風と武。益野。とく。度ふれ
り。あく。同室もあつて。何圓の内だ。あづから。し。
まく。角。貢。残。と。而。まく。あが。高。と。く。く。



之に候ド候はりやうあまく。同居一行みくあ
乃賣酒器大よりかくらべの凡まづひとた。あ
らく同丸乃肉鰹腸より乃アラミヒシロヒル外法
よりれ入すめりとれと実神もすれどもば
かくへ裏微もくあスークレバ年中乃足餘り
え無れる。あめくしてのちれどもまく算用乃く
ぬすあり。度量也は食れるも。向來年中乃度量
あ年乃度量よ御へ重きより年中れへ全般
とを計よやく。穴とゆく是ようち入十二月十一日
まくと勤定とはこそあつて。あふ實同居泥とわ
てりくともれ寝うるも當がう

